



浦和大里小学校だより

2月号 令和7年1月31日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成



ワイパーで進もう

校長 中野 緑

まだまだ寒さが身に染みる朝晩です。けれども冬の夜には明るく星が輝きます。仕事を終えて職員玄関を出た正面には、今日も金星が光っています。今年も埼玉大学の小倉研究室にご協力いただいて、2月5日、4年生から6年生の希望者を対象に星空観望会を行うこととなりました。宇宙に思いをはせる時間といたしましょう。

掃除の時間、職員が、ほうきを持った手を動かしながら、子どもたちに声をかけています。「ワイパーで進もう！ そう！その調子！」

ワイパーってなんだろう。私は最初、意味が分かりませんでした。気になって掃除の様子を観察してみました。

掃除の時間は15分。3年生の子どもたちが、広くて長い廊下をワイパーのように左右に手を動かしながら、後ろに少しずつ進んでいきます。床をしっかりと見ながら、1mmも隙間がないように、キュッ、キュッと拭き上げていく子どもがいます。廊下は水ぶきのため、手は赤くなっています。「よく頑張っているね」と声をかけずにはいられませんでした。

その後、2年生の授業を参観しました。素敵な3年生に近づくために、自分にあった目標を見出し、取り組むという授業でした。授業を行うにあたって、自分が2年生で成長したことを確かめ合ったり、3年生の教室訪問をしたりしました。2年生と何が違うのかを知り、新しいことがたくさん始まることにわくわくしている様子が伝わってきました。

「わたしは、優しい3年生になりたいです。そのために、通学班の1年生に、優しい声でお話します。」「わたしは、あきらめずにがんばる3年生になりたいです。例えば、リコーダーで上手にふけなかったら、何回も練習します。」

よりよい自分を目指して一生懸命な子どもたちですが、その一方で、日常では、うまくいかないことが次々とおこります。以前できたことができなくなったり、努力を続けても停滞しているように見えたりすることもあります。

子どもの成長も、ワイパーのように、行ったり来たり。理想のゴールに向かって一直線にはなかなかいきません。けれども、子どもにかかわる大人は、わずかずつでも着実に進むイメージをもつことが大切です。美しい廊下だけでなく、一生懸命拭いたその行為をたたえたい。その行為が、まじめさ、責任感の表れだから。掃除以外につながる力になるから。私は、努力の過程を見つけようと自分に言い聞かせながら、今日も学校にきています。